

(別紙)

森林内等の作業におけるダニ刺咬予防対策について

1 ダニ刺咬の予防について

ア 服装について

- ① 皮膚の露出は避けて下さい。
- ② 衣服は、長袖、長ズボン、長靴下等を着用し、衿首、袖口、裾からダニが入り込まないように、そで締め、すそ締めのよいものを着用して下さい。

イ 作業中、作業後等における対策について

- ① 休憩、休息时间等には、自分の衣服をたたいてダニを落として下さい。また、敷物等所要の工夫をし、地面に直接腰を下ろさないよう心掛けて下さい。
- ② 必要に応じてダニ忌避剤を携行し、使用して下さい。
- ③ 終業時には、ダニが付着していないかお互いの服装（頭部、耳の中と後部、首の周りを含む。）を点検して下さい。
- ④ 帰宅後、入浴時等において、刺咬頻度の高い頭部（髪の毛の中）、耳の中と耳の後部、首の周り、わきの下、そけい部、大腿内側、膝の後部などにダニや刺咬痕がないか確認して下さい。

ウ その他

野生動物等には、直接触れないで下さい。

2 ダニに刺咬された場合の措置について

(別添「ダニに刺咬されたときの措置についてのフロー図」参照)

ア ダニの刺咬が浅く、自分でダニを取り除くことが可能である場合

- ① ダニの口器が皮膚に残らないようにピンセット等で皮膚に近い部分を挟んで静かにゆっくりと離して下さい。
なお、その際、病原体が逆流して感染を促すことがあるので、無理をして虫体を絞り込むことのないよう注意して下さい。
- ② 取り除いた皮膚の部分は、消毒して下さい。
- ③ ダニの一部が皮膚に残った場合は、残った虫体を皮膚科医師に完全に取
り除いてもらうようにして下さい。

イ 自分でダニを取り除くことが困難である場合

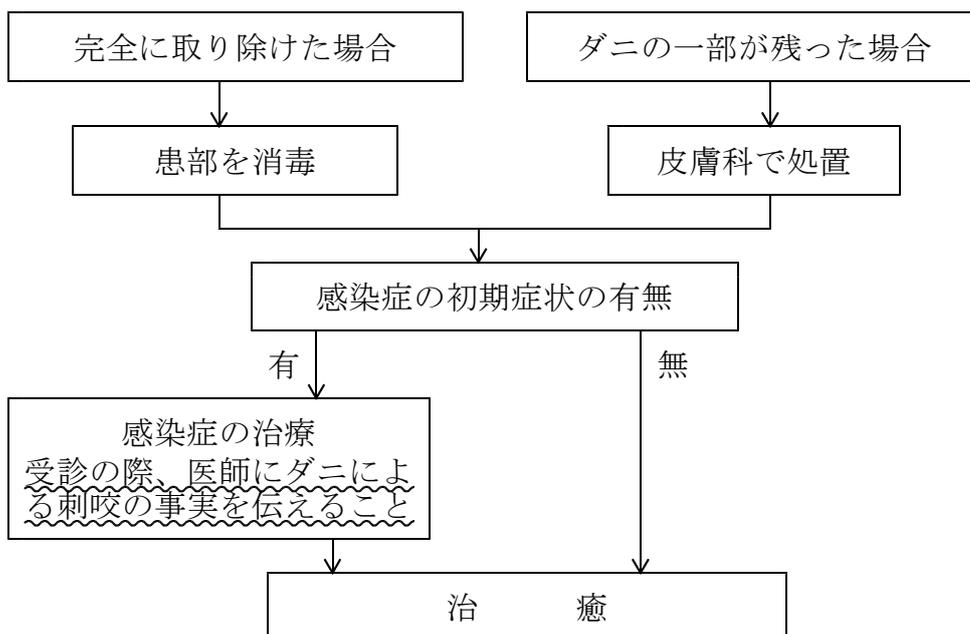
皮膚科医師により、刺咬した虫体を取り除いてもらうようにして下さい。

ウ 感染症の初期症状と思われる症状が現れた場合は、医療機関で処置、治療等を受けて下さい。

ダニに刺咬されたときの措置についてのフロー図

自分でダニを取り除くことが可能な場合

- ・ ダニの口器が皮膚に残らないようにピンセット等で皮膚に近い部分を挟んで静かにゆっくり離す。
- ・ その際、病原体の逆流による感染の危険があるので、虫体を絞り込まないように注意する。



自分でダニを取り除くことが困難である場合

